

2025 年度 東京有明医療大学
看護学部 看護学科 学校推薦型選抜/社会人選抜
基礎学力試験 問題用紙

受験番号		氏名	
------	--	----	--

I 以下の文章を読み、各問いに答えなさい。

秋という季節は、風について語りたくなる。〈どっどど どどうど どどうど どどう、／青いくるみも吹きとばせ／すっぱいかりんもふきとばせ〉。このあまりにも印象的な言葉で、^①宮沢賢治の「風の又三郎」は、秋に吹く風の音を表した▼荒々しい風が野山を走り、ひとしきり雨を降らせた後には、湯気たつ雲を破って青い空が広がる。賢治の耳には、通り過ぎる風が〈どう〉と鳴るように聞こえたのだろう。それは学校の窓を震わせ、うらの山の^②萱や栗の木を揺らしていった、と記している▼では、色はどうだろう。^③秋の風は何色か。この時節の風は「金風」などとも呼ばれてきた。私がひかれるのは「白風」とか「素風」といった表現だ。白とは、何もまとも無色透明を意味する。つまりは「色なき風」である▼秋の風は、物寂しさも誘う。隣国の古き詩に転じれば、^④漢の武帝の作とされる「秋風の辞」が広く知られる。〈秋風起こりて 白雲飛び／草木黄落して ^⑤雁 南に帰る〉。蕭条(しょうじょう)たる風が眼前を吹きぬけて、たそがれの訪れをわびしく伝える▼万物を枯らすのも、秋風である。詩はこう結ばれる。〈歓楽極まりて 哀情多し／^⑥少壮幾時ぞ 老いを奈何(いかん)せん〉。よろこびが高まるときに、かなしみもまた、増している。若きは足早に過ぎ去り、歩みくる老いを何とするか▼あすはもう、^⑦暦のうえでは立冬である。暑い寒いと季節のめぐりを嘆くばかりでは、つまらない。晩秋に深く、その風を、身にしむように感じたい。

2024 年 11 月 6 日 朝日新聞 天声人語「秋に吹く風」
設問の都合で表記を一部改めている (承諾番号 25-1187)

【設問】

【問 1】^①の作者の他の作品について、作品名を一つあげなさい。

【問 2】^{②⑤}のよみがなを書きなさい。

【問 3】^③「秋の風は何色か。」とありますが、あなたにとって秋の色は何色でしょうか。また、どうしてそう思ったか説明しなさい。

【問 4】^④の漢は、今のどの国でしょうか。

【問 5】武帝が述べた^⑥の少壮幾時ぞ 老いを奈何(いかん)せん〉の意味を述べなさい。

【問 6】^⑦の暦を別の言い方で述べなさい。

2 枚目に続く

朝日新聞社に無断で転載することを禁じる

II 以下の文章を読み、各問いに答えなさい。

コロンビアで開かれた生物多様性条約締約国会議(COP16)の交渉が長引いて中断し、注目された議題の結論が持ち越された。生物多様性の保全と回復は地球規模の喫緊の課題であり、合意に向けた努力を続けねばならない。

私たちのくらしは生態系や生物多様性の恵みによって支えられ、安定を保っている。生きるのに必要な酸素は植物が作りだす。水も木材も自然が供給する。国連の科学者組織によると、人類は食料、医薬品やエネルギーとして利用するなど、約 5 万の野生種から便益を得ている。

会合を前に世界自然保護基金(WWF)は、この 50 年間で世界の生物多様性が平均 73%減少したとする報告書を発表した。後戻りできない転換点を超える恐れがあり、「今後 5 年間の決断と行動が地球の生命の未来にとって極めて重要」だと指摘する。

締約国会議は 2 年に 1 回開かれる。2010 年の COP10 は 20 年までの「愛知目標」を採択したが、ほとんどが未達成で終わった。その後継となるのが「昆明—モントリオール目標」だ。前回の COP15 で、21 年の中国・昆明と 22 年のカナダ・モントリオールでの会議を経て決まった。

今回は、その目標の達成を評価する指標を決め、次回以降進展を確認していく予定だった。前回は足かけ 2 年で新目標が決まった。今回合意が持ち越された議題も、粘り強く交渉を続けねばならない。

今の目標は「30 年までに生物多様性の損失を止め、反転させる」ために、具体策として「陸域、海域などを 30 年までに 30%保全」「過剰な肥料と農薬のリスクを半減」「食料廃棄の半減、過剰消費の大幅削減」など 23 項目を掲げている。日本は目標の行動計画となる新しい「生物多様性国家戦略」を昨年、さくいていしている。着実に進めるべきだ。

今回、生物の DNA を調べて得たデジタル情報による利益の配分も大きなテーマだった。利益を得る製薬会社など大企業が規模に応じて国際基金に拠出することは合意したが、具体的な内容は持ち越した。日本は、ぎむかすると制度づくりに時間がかかるとして、任意拠出を求めている。

会議には企業や経済界からの関連イベントやブース出展の参加も目立った。事業による生物多様性への影響評価と情報開示、軽減策が求められる。顧客から信頼され、選ばれるためにも、企業の積極的な取り組みが欠かせない。

人類が将来も地球で生きていくために、経済活動も生活行動も改める必要があることを再確認したい。

2024 年 11 月 4 日 朝日新聞 社説「生物多様性 保全への努力 粘り強く」
設問の都合で表記を一部改めている (承諾番号 25-1187)

【設問】

【問 7】 ⑧喫緊の読み方と意味を示しなさい。

【問 8】 ⑨酸素の化学式を示しなさい。

【問 9】 ⑩国連の正式名称を述べなさい。

【問 10】 ⑪生物多様性の損失を止め、反転させる」ために、私たちには何ができるでしょうか。あなたにできることを述べなさい。

【問 11】 ⑫⑬を漢字で書きなさい。

朝日新聞社に無断で転載することを禁じる